

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社 アドバンス工業		
事業所名	グループホーム あげぼの苑	ユニット名	B棟
所在地	宮崎市田野町あげぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	平成22年7月30日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571500471&SCD=320>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成22年8月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たな地域に密着の理念が出来ており、全職員で理念を共有し、充実した支援が出来るように取り組んでいる。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・年一回夕涼み会への参加の声かけを積極的に行い努力している。（今年度、口蹄疫の為中止） ・年一回の11月に町内での文化祭には出展をし、見学を実施している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者がそれぞれの地区に出向き、認知症の事や事業所の内容、説明を行い、理解してもらえるように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議では、苑のケア、内容、行事報告や問題などの相談を行い、それぞれの意見を頂き、苑内の月1回のカンファレンスで報告をし、サービス向上に繋げる努力をしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、地域包括支援センターの方との連携を密に行っている。又、地域包括支援センターの勉強会、研修会にも参加することで、行政の方々との繋がりを持ち、事業所との協力関係が築けるよう取り組んでいる。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指針における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が十分理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会ある度に話し合いを持ち、虐待に繋がる事のないように注意し防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会ある事に話し合い、又、入居時は必ず家族に対しても説明や情報の提供に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解していただけのように努めている。 不安な事、疑問を感じた点はないか確認し、理解を得ようとしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から不満声や苦情が聞かれた時は、速やかに管理者が運営者と話し合いが出来る体制を常に設けており、必要に応じ直接相談していただけるよう取り組んでいる。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の合同カンファレンスや機会あるごとに意見や提案を聞く様にしており、反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の合同カンファレンスに参加し、職員の色々な研修発表も一緒に学んでいる。 又、今回は処遇改善手当もあり、よりいっそう職場や職員の向上に努める事ができたと思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や講習については、時間の許す限り各人参加していただいている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会などで同業者の方との交流はできていると思う。現在地域密着で取り組んでいるのは地域老人福祉のいきいきサロンの会に参加し、月1～2回程参加して色々な高齢向けの話や慰問を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人家族とコミュニケーションを取り、あらゆる面で聞き取りを行い、入居後1～2週間は毎日行動チェックを記録し、ミーティングを行いニーズを引き出したり、寄り添いながら不安な事、要望等に耳を傾け安心して生活が出来るよう努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	3か月、6か月の担当者会議時、必ず意見を求め要望等を引き出す努力はしている。又、それ以外に来苑された時など積極的に声かけし、聴く機会作り努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが積極的に取り組み、家族の意見、要望を聴く努力をし、管理者や担当者へ相談し、支援を見極めサービスに繋げる努力をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方一人ひとりを家族の一員と思い、支えあえる関係が築けるよう努力し、又、人生の先輩として日常生活の中で学ばせてもらう事も多々あり、勉強になっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしてくる努力はしているが、中には事情があり、全く関わりを持たずとされない家族もあり、職員が出来る限りの支援は行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、地域、知人への声かけを機会ある事に行っている。 ドライブを兼ねて故郷訪問もしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係を見極め、関わりやすい雰囲気作りへの配慮に努め支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的なフォローが必要な方、家族に対して常に連絡を取り合う努力はしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議時に、希望、意向の把握を行っている。困難な場合、本人の残存能力等を勘案しサービスの提供を行っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や担当者会議等で把握に努めているが、家族によっては全く話されない方もいて、本人の話だけでは把握困難な時がある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、ケアプランによる一人ひとりの状態を毎日記録し把握に努めている。発熱したり、状態変化時は、看護師に連携をとり対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1度、家族、担当者、管理者及び看護師、ケアマネでサービス担当者会議を行い、利用者本位の介護計画を作成している。又、毎月担当者とモニタリングを行い状態把握に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた援助記録を行い体調の変化(脚力の低下)等、情報を共有し、頻度の変更やプランの見直しを行っている。ドライブや団子作りなどで笑顔が多く見られたら、職員間で話し、コミュニケーションを広げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に大きな問題はない。認知症の方は帰宅願望が強いが、その時その時の対応の方法で落ち着かれている為、今のところは既存のサービスでよい。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	B棟	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の紙芝居ボランティア、年1回の保育園児の訪問、夕涼み会時の踊り、カラオケのボランティア、初詣、月1回のドライブ（馴染みの地域、堀切峠、あじさい公園等）			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視し納得が得られたかかりつけ医がある。 かかりつけ医との関係は良く気軽に相談できる。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護職がおり、日常的に連携が取れ、日々の業務の中で気付きや異変時は早急に看護師に相談し、指示を仰ぎ対応している。又、職員間での情報共有にも努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関やかかりつけ医との連絡を密にし、面会に行き、利用者や家族との関係を維持できる様努めている。常日頃より協力医療機関との関係を良い状態で保てる努力はしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変や終末期については十分な説明を家族に行い、現時点での苑の体制も一緒に説明し理解を得ている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、基本マニュアルは作成している。不定期ではあるが研修や講習会に参加し、月1回の合同カンファレンスで全職員に報告を重ねて勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災時は消防局と直通で連絡できるようになっている。 ・災害時は地域や消防団への協力依頼を日頃よりおこなっている。 ・火災訓練年2回実施			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった言葉かけを行い、プライバシーを損なわない対応に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間に余裕がある時は、出来る限り寄り添うよう努め、本人の思いや希望を表したり出来るように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのプランに添える様に支援しているが、午前中は健康維持とレクリエーション、ボール遊び、輪投げ、歌、パターゴルフ、外気浴、苑庭や廊下での歩行運動を参加して頂いている。午後は自由にDVDを見たり居室で過ごして頂いている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら好みの服装をされる方は少ない。季節感にそぐわない時などは、さりげなく合った服装を準備したり、洋服選びを手伝い支援している。職員は、常に清潔に心がけ注意を払っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一人ひとりの好みを取り入れる努力をしながらメニューを考え、四季折々の食材を提供するように努めている。又、利用者の力を活かしながら、食材の刻みや盛り付け等を手伝って頂き、一緒に準備する喜びを感じてもらっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスに配慮し、献立を立てている。季節の食材を使う事で季節感を味わい、喜んでいただいている。 ・食事摂取量のチェック、記録、一人ひとりの状態を把握し、水分量の確保に努め支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアの声かけ、見守り、必要に応じて介助し清潔保持している。 ・義歯消毒(2回/w、月・木)			

自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、習慣を生かし、時間誘導、声かけなど必要に応じ介助を支援している。 現在はすべてトイレで対応している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの利用者には早朝の冷水提供、かかりつけ医からの便秘薬処方。 食材への配慮、おやつ時食物の配慮 午前中の適宜な運動の声かけ、実施。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・隔日の入浴(4名、5名に分けて)午後2時より実施 ・一人ひとりの入浴でプライバシーの保持 ・時折、夜間入浴の問いかけはするが今のところ参加者はおられない。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活のメリハリを付ける目的、健康維持の為、午前中のみ(10時のお茶後、リハビリ体操、スクワット、下腿拳上運動や外気浴、散歩、苑庭や廊下での歩行運動実施。天候によってレクリエーション(ボール遊び、輪投げ、パターゴルフ)			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容、副作用、用法、用量は処方説明書で把握している。誤薬防止の為、一人ひとり名前、日付を確認・手渡し、必要に応じ直接口の中に入れてたりして支援している。薬の変更時は、必ず全職員が把握できるように引き継ぎノートに記載し、申し送りの徹底に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々にはその人に合った役割分担をお願いしている。(テーブル拭き、台所の手伝い、米とぎ、盛り付け、洗濯物干し、取り入れ、運び、たたみ) トランプ(ババ抜き)			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	たまに利用者の方2～3人を伴ってスーパーや衣料品店等に出かける事もある。 月1回理事長の協力を得て、交代でドライブを実施。			



自己	外部	項目	自己評価	B棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・普段はほとんどお金は使われない。 ・紅葉狩りで外出した時や、ドライブで売店に行った時お金(500円程)を持たせ買い物に行くが、中には全く関心を示さない方もおられる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでも対応している。 手紙を書こうとする人が今はおられない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは居心地良く過ごして頂く様、畳の間もあり、TV、CDラジカセ、ソファを備えており、利用者の意向に合わせてCDを流したり、DVDを見たりして過ごされている。空気清浄機(加湿機機能)を設置しているが、天候が良い時などには、まめに自然な空気を取り入れたりして工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールでは気の合った利用者同士で過ごせる様に席の配置を工夫している。 ・ソファや畳の間で自由に過ごせる工夫。 ・家庭的な雰囲気を感じてもらえるように飾りつけにも工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者によってはTV、イス、収納ケースなど持ち込まれている。 ・何もない方には、面会時や担当者会議等を利用し声かけを行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・要所々に手摺を設置、トイレは介護バーの設置 ・バリアフリーで安全の確保。 ・夜間トイレに行かれる利用者には、センサー式照明の設置で、安心して歩行していただいている。 ・各居室に洗面台がついており、いつでも好きな時に使用する事ができる。			